

A10

**SKIN WASHING AGENT COMPOSITION**

**Patent number:** JP11180855  
**Publication date:** 1999-07-06  
**Inventor:** SAKURAI HISAE; SUMITA HIKARI; SUKAI ICHIRO  
**Applicant:** KAO CORP  
**Classification:**  
**- international:** A61K7/50; A61K7/02; C11D3/33; C11D10/02;  
C11D10/02; C11D3/33; C11D1/04  
**- european:**  
**Application number:** JP19970351009 19971219  
**Priority number(s):** JP19970351009 19971219

**Report a data error here****Abstract of JP11180855**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To obtain a skin washing agent composition having excellent using feeling with creamy feeling, excellent bubbling, low irritation and giving wet dampish wash-finished state after washing, by including an anionic surfactant and trimethylglycine at a specific weight ratio.  
**SOLUTION:** This washing agent composition contains (A) preferably an anionic surfactant such as an alkylbenzene sulfonate of a 10-16C alkyl and (B) trimethylglycine at a weight ratio of (A/B)=(100/1)-(4/1), preferably further contains (C) polyols.

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-180855

(43) 公開日 平成11年(1999) 7月6日

(51) Int.Cl.<sup>5</sup> 識別記号

A 6 1 K 7/50

7/02

C 1 1 D 3/33

10/02

// (C 1 1 D 10/02

F I

A 6 1 K 7/50

7/02

C 1 1 D 3/33

10/02

A

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 8 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願平9-351009

(22) 出願日 平成9年(1997) 12月19日

(71) 出願人 000000918

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号

(72) 発明者 桜井 尚枝

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会

社研究所内

(72) 発明者 住田 光

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会

社研究所内

(72) 発明者 須貝 一郎

東京都墨田区文花2-1-3 花王株式会

社研究所内

(74) 代理人 弁理士 有賀 三幸 (外3名)

(54) 【発明の名称】 皮膚洗浄剤組成物

(57) 【要約】

【解決手段】 (A) アニオン界面活性剤、及び (B) トリメチルグリシンを含有し、成分 (A) 及び (B) の重量比が (A) / (B) = 100 / 1 ~ 4 / 1 である皮膚洗浄剤組成物。

【効果】 クリーミーで良好な泡立ちで、使用感に優れ、低刺激であり、しかも洗浄後の肌のつっぱり感が少なく、さっぱりとした洗浄感がありながらも、べたつきのないしっとりとうるおった洗い上がりを得られる。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 (A)アニオン界面活性剤、及び(B)トリメチルグリシンを含有し、成分(A)及び(B)の重量比が(A)/(B)=100/1~4/1である皮膚洗浄剤組成物。

【請求項2】 更に、(C)ポリオール類を含有する請求項1記載の皮膚洗浄剤組成物。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、クリーミーで良好な泡立ちで、使用感に優れ、しかも低刺激性で、洗浄後にしっとりとうるおった洗い上がりが見られる皮膚洗浄剤組成物に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、皮膚洗浄剤組成物には、高起泡性という特長を有することから、アルキル硫酸エステル塩、アルキルベンゼンスルホン酸塩、 $\alpha$ -オレフィンスルホン酸塩等のアニオン界面活性剤が広く用いられている。しかしながら、これらの界面活性剤は、多量に配合した場合などには刺激性が生じることがあり、また洗浄後にさっぱりした感触は得られるものの、肌のつっぱり感があるなどの問題があった。

【0003】このため、より低刺激性の界面活性剤として、スルホコハク酸系界面活性剤、エーテルカルボン酸系界面活性剤、アミドエーテルカルボン酸系界面活性剤、N-アルキルアミドアルカノール硫酸エステル塩等が知られている。しかし、これらの界面活性剤は、起泡性や泡質などの点で十分満足できるものではなかった。このような低刺激性の界面活性剤を用いる場合には、これらの起泡性、泡質を改善するため、非イオン界面活性剤や両性界面活性剤を組合わせて配合することが行われているが、洗い上がりにべたつき感があるという問題があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】従って、本発明の目的は、良好な泡立ちで、使用感に優れ、しかも低刺激性で、洗浄後にさっぱりとして、かつべたつきのない皮膚洗浄剤組成物を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは鋭意研究を行った結果、アニオン界面活性剤とトリメチルグリシンを特定の割合で組合わせて用いれば、クリーミーで良好な泡立ちで、使用感に優れ、低刺激であり、しかも洗浄後の肌のつっぱり感が少なく、さ\*

\*っぱりとした洗浄感がありながらも、しっとりとうるおった洗い上がりが見られる皮膚洗浄剤組成物が得られることを見出し、本発明を完成した。

【0006】すなわち、本発明は、(A)アニオン界面活性剤、及び(B)トリメチルグリシンを含有し、成分(A)及び(B)の重量比が(A)/(B)=100/1~4/1である皮膚洗浄剤組成物を提供するものである。

【0007】

【発明の実施の形態】本発明で用いられる成分(A)のアニオン界面活性剤としては、通常の皮膚洗浄剤組成物に用いられるものであれば特に制限されず、例えば以下に示すものが挙げられる。

【0008】(i)アルキルベンゼンスルホン酸塩、好ましくは平均炭素数10~16のアルキル基を有する直鎖又は分岐鎖のアルキルベンゼンスルホン酸塩。

(ii)アルキルエーテル硫酸塩又はアルケニルエーテル硫酸塩、好ましくは平均炭素数10~20の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を有し、1分子内に平均0.5~8モルのエチレンオキシド、プロピレンオキシド、ブチレンオキシド、エチレンオキシドとプロピレンオキシドが0.1/9.9~9.9/0.1の比で、あるいはエチレンオキシドとブチレンオキシドが0.1/9.9~9.9/0.1の比で付加したアルキルエーテル硫酸塩又はアルケニルエーテル硫酸塩。

【0009】(iii)アルキル硫酸塩又はアルケニル硫酸塩、好ましくは平均炭素数10~20のアルキル基又はアルケニル基を有するアルキル硫酸塩又はアルケニル硫酸塩。

(iv)オレフィンスルホン酸塩、好ましくは平均10~20の炭素原子を1分子中に有するオレフィンスルホン酸塩。

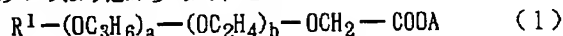
(v)アルカンスルホン酸塩、好ましくは平均10~20の炭素原子を1分子中に有するアルカンスルホン酸塩。

(vi)高級脂肪酸塩、好ましくは平均10~24の炭素原子を1分子中に有する飽和又は不飽和脂肪酸塩。

【0010】(vii)(アミド)エーテルカルボン酸型界面活性剤、好ましくは次の式(1)で表わされる(アミド)エーテルカルボン酸型界面活性剤。

【0011】

【化1】



【0012】【式中、 $R^1$ は直鎖又は分岐鎖の炭素数8~22のアルキル基又はアルケニル基、アルキル( $C_6 \sim C_{22}$ )フェニル基又は $R^2CONH-CH_2-CH_2-$ 基( $R^2$ は炭素数1~21の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル

基である)を示し、aは0~6の数を示し、bは2~24の数を示し、Aは水素原子、ナトリウム、カリウム、リチウム、マグネシウム、モノエタノールアミン又はアンモニウムマグネシウムトリエタノールアミンの残基を

示す]

【0013】(vii) α-スルホ脂肪酸塩又はエステル、好ましくは平均10～20の炭素原子から成るアルキル基又はアルケニル基を有するα-スルホ脂肪酸塩又はエステル。

(ix) N-アシルアミノ酸型界面活性剤、好ましくは炭素数8～24のアシル基及び遊離カルボン酸残基を有するN-アシルアミノ酸型界面活性剤(例えばN-アシルザルコシネート、N-アシル-β-アラニンなど)。

(x) リン酸エステル型界面活性剤、好ましくは炭素数108～24のアルキル基もしくはアルケニル基又はそれら\*

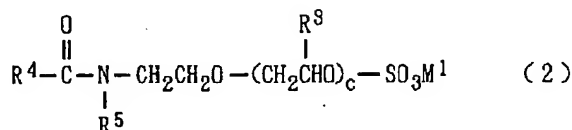
\*のアルキレンオキシド付加物を有するリン酸モノ又はジエステル型界面活性剤。

(xi) スルホコハク酸エステル型界面活性剤、好ましくは炭素数8～22の高級アルコールもしくはそのエトキシレートなどのスルホコハク酸エステル又は高級脂肪酸アミド由来のスルホコハク酸エステル、

(xii) ポリオキシアルキレン脂肪酸アミドエーテル硫酸塩、好ましくは次の式(2)で表わされるポリオキシアルキレン脂肪酸アミドエーテル硫酸塩。

【0014】

【化2】



【0015】[R<sup>1</sup>は炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、R<sup>4</sup>は炭素数7～23の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、R<sup>5</sup>は水素原子又は炭素数1～5のアルキル基を示し、cは0～20の数を示し、M<sup>1</sup>はアニオン性残基の対イオンを示す]

(xiii) モノグリセライド硫酸エステル塩、好ましくは炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の脂肪酸基を有するモノグリセライド硫酸塩。

(xiv) アシル化イセチオン酸塩、好ましくは炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の脂肪酸基を有するアシル化イセチオン酸塩。

(xv) アルキルグリセリルエーテル硫酸塩又はアルキルグリセリルエーテルスルホン酸塩、好ましくは炭素数8～24の直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基もしくはアルケニル基もしくはそれらのアルキレンオキシド付加物を有するアルキルグリセリルエーテル硫酸塩又はアルキルグリセリルエーテルスルホン酸塩。

(xvi) アルキル又はアルケニルアミドスルホネート、好ましくは炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を有するアルキル又はアルケニルアミドスルホネート。

(xvii) アルカノールアミドスルホコハク酸塩、好ましくは炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を有するアルカノールアミドスルホコハク酸塩。

(xviii) アルキルスルホアセテート、好ましくは炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を有するアルキルスルホアセテート。

(xix) アシル化タウレート、好ましくは炭素数8～24の直鎖又は分岐鎖の飽和又は不飽和の脂肪酸基を有するアシルタウレート。

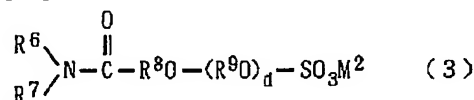
(xx) N-アシル-N-カルボキシエチルグリシン塩、

好ましくは炭素数6～24のアシル基を有するN-アシル-N-カルボキシエチルグリシン塩。

(xxi) N-アルキルアミドアルカノール硫酸エステル塩、好ましくは次の式(3)で表わされるN-アルキルアミドアルカノール硫酸エステル塩。

【0016】

【化3】



【0017】(式中、R<sup>6</sup>は炭素数6～22の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基を示し、R<sup>7</sup>は炭素数1～22のアルキル基、アルケニル基又は水素原子を示し、R<sup>8</sup>は炭素数1～5の直鎖又は分岐鎖のアルキレン基を示し、R<sup>9</sup>Oは炭素数2～3のオキシアルキレン基を示し、nは0～20の任意の数を示し、d個のR<sup>9</sup>Oは同一でも異なってもよい。M<sup>1</sup>は水素原子、アルカリ金属、アルカリ土類金属、アンモニウム、総炭素数2～9のアルカノールアンモニウム、総炭素数1～22のアルキルアンモニウムもしくはアルケニルアンモニウム、炭素数1～18のアルキルもしくはアルケニル置換ピリジニウム、又は塩基性アミノ酸を示す)

【0018】これらのアニオン性界面活性剤の塩、すなわちアニオン性残基の対イオンとしては、ナトリウム、カリウム等のアルカリ金属イオン、カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属イオン、アルギニン、リジン、ヒスチジン等の塩基性アミノ酸、アンモニウムイオン、炭素数2又は3のアルカノール基を1～3個有するアルカノールアミン(例えばモノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、トリイソプロパノールアミンなど)を挙げることができる。

【0019】これらのアニオン界面活性剤のうち、高級

脂肪酸塩、N-アシルアミノ酸型界面活性剤、リン酸エステル型界面活性剤が好ましい。

【0020】より具体的には、高級脂肪酸塩としては、例えばラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、イソステアリン酸、オレイン酸などの単一脂肪酸、ヤシ油脂肪酸、牛脂脂肪酸等の混合脂肪酸などの炭素数8~22の脂肪酸の塩が挙げられる。また、脂肪酸塩の塩の形態としては、ナトリウム、カリウムなどのアルカリ金属やカルシウムなどのアルカリ土類金属等の無機塩基性塩；アンモニウム、モノエタノールアミン塩、ジエタノールアミン塩、トリエタノールアミン塩（TEA塩）、2-アミノ-2-メチルプロパノール、2-アミノ-2-メチルプロパンジオール等のアルカノールアミン塩；リジン、アルギニン、ヒスチジン等の塩基性アミノ酸塩などが挙げられ、特に塩基性アミノ酸塩が好ましい。

【0021】特に好ましい高級脂肪酸塩としては、ラウリン酸トリエタノールアミン、ラウリン酸カリウム、ミリスチン酸アルギニン、ステアリン酸カリウム、ヤシ油脂肪酸リジンが挙げられる。

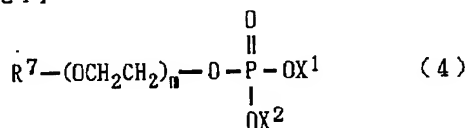
【0022】なお、これらの高級脂肪酸塩は、洗浄剤組成物を調製する際に、必ずしも脂肪酸塩として配合する必要はなく、脂肪酸と塩基とを独立的に配合し、配合処方系の中で脂肪酸塩を形成させてもよい。

【0023】また、N-アシルアミノ酸型界面活性剤としては、炭素数8~24のアシル基及び遊離カルボン酸残基を有するものが好ましく、具体的にはN-アシル-β-アラニン塩、N-アシルサルコシン塩等が挙げられ、特にN-ラウロイル-β-アラニンアルギニン、N-ラウロイル-β-アラニンカリウム、N-ラウロイル-β-アラニントリエタノールアミンが好ましい。

【0024】リン酸エステル型界面活性剤としては、例えば次の一般式（4）で表わされるものが挙げられる。

【0025】

【化4】



【0026】（式中、R<sup>7</sup>は炭素数8~36の炭化水素基を示し、X<sup>1</sup>は水素原子、アルカリ金属、アンモニウム、塩基性アミノ酸又はアルカノールアミンを示し、X<sup>2</sup>は水素原子、アルカリ金属、アンモニウム、塩基性アミノ酸、アルカノールアミン又はR<sup>7</sup>-(OCH<sub>2</sub>CH<sub>2</sub>)<sub>m</sub>-を示し、mは0~5の数を示す）

【0027】式中、R<sup>8</sup>で示される炭素数8~36の炭化水素基としては、炭素数8~36の直鎖又は分岐鎖のアルキル基又はアルケニル基が挙げられ、特に炭素数8~20の直鎖又は分岐鎖のアルキル基が好ましい。具体

的には、オクチル基、ノニル基、デシル基、ウンデシル基、ドデシル基、テトラデシル基、ペンタデシル基、ヘキサデシル基、オクタデシル基、イコシル基等が挙げられる。

【0028】また、X<sup>1</sup>及びX<sup>2</sup>のうち、アルカリ金属としては、例えばリチウム、ナトリウム、カリウム等が；塩基性アミノ酸としては、例えばアルギニン、リジン、ヒスチジン、オルニチン等が；アルカノールアミンとしては、炭素数2~3のヒドロキシアルキル基を有するものが好ましく、例えばトリエタノールアミン、ジエタノールアミン、モノエタノールアミン等が挙げられる。

【0029】更に、mは0~5の数を示し、特に0が好ましい。

【0030】このようなアルキルリン酸塩（3）としては、特にラウリルリン酸、ミリスチルリン酸、パルミチルリン酸又は2-ヘキシルデシルリン酸のアルギニン、カリウム又はトリエタノールアミン塩が好ましい。

【0031】成分（A）のアニオン界面活性剤は、1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、全組成中に1~50重量%、特に1~30重量%、更に3~25重量%配合すると、細かくクリーミーな泡質で、かつ泡持ちの良好な泡が得られるので好ましい。

【0032】成分（B）のトリメチルグリシンは、全組成中に0.1~25重量%、特に0.1~20重量%、更に0.5~10重量%配合すると、十分な増泡効果が得られるとともに、低温安定性も良好であり好ましい。

【0033】また、成分（A）及び（B）の重量比は、（A）／（B）=100／1~4／1、好ましくは75／1~5／1、特に好ましくは50／1~10／1であることが必要である。成分（B）が100／1未満では十分良好な泡質が得られず、4／1を超えると低温で著しく増粘し、安定性が悪くなる。

【0034】本発明の皮膚洗浄剤組成物には、更に（C）成分としてポリオール類を配合することができ、低温安定性が向上するとともに、洗浄後の肌により十分なるおいを残すことができるので好ましい。

【0035】かかるポリオール類としては、例えばプロピレングリコール、イソプロレングリコール、1,3-ブタジレングリコール、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ソルビトール、マルチトール、キシリトール、グルコース、ポリエチレングリコール400、ポリエチレングリコール600、ジプロピレングリコール、ジグリセリン、ヘキシレングリコール、スクロース、ポリオキシエチレングリコシド誘導体などが挙げられ、特にプロピレングリコール、イソプロレングリコール、1,3-ブチレングリコールが好ましい。

【0036】成分（C）のポリオール類は1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、全組成中に3~30重量%、特に5~30重量%配合すると、洗浄剤組成

物を増粘、安定化させ、しかも洗浄剤組成物を洗い流した後の肌のしっとり感を良好なものとする事ができ、好ましい。

【0037】本発明の皮膚洗浄剤組成物には、更に(D)成分としてエタノールを配合することができる。かかるエタノールは、全組成中に0.1～10重量%配合すると、より細かくクリーミーな泡が得られ、洗浄力も向上するので好ましい。

【0038】また、本発明の皮膚洗浄剤組成物には、前記の界面活性剤に加えて、他の界面活性剤、例えばカルボベタイン系、スルホベタイン系、イミダゾリニウムベ  
10 タイン系、アミドベタイン系等の両性界面活性剤；直鎖もしくは分岐鎖のアルキル基を有するモノもしくはジアルキル付加型第4級アンモニウム塩及びそのアルキル基にアルキレンオキシドを付加したカチオン界面活性剤；アミノオキシド類、モノグリセライド類、ソルビタン脂肪酸エステル類、アルキルサッカライド、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、高級脂肪酸アルカノールアミドなどのノニオン界面活性剤を、必要に応じて適宜添加することができる。

【0039】これらのうち、両性界面活性剤としては、例えばヒドロキシプロピルスルホベタイン、脱塩処理した2級のイミダゾリニウムベタイン等が好ましく；カチオン界面活性剤としては、例えば炭素数12～16の直鎖モノアルキル第4級アンモニウム塩、炭素数20～28の分岐アルキル基を有する第4級アンモニウム塩等が好ましく；ノニオン界面活性剤としては、例えばラウリルジメチルアミノオキシド、ミリスチルジメチルア  
20 ミンオキシド、イソステアリン酸モノグリセライド、オレイン酸モノグリセライド、オクタン酸モノグリセライド、ソルビタンモノカプリレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタントリオレエート等が好ましい。

【0040】これらの両性界面活性剤、カチオン界面活性剤、ノニオン界面活性剤は1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、全組成中に合計で0.5～30重量%、特に1～20重量%配合するのが好ましい。

【0041】本発明の皮膚洗浄剤組成物には、必要に応じて、更に通常の皮膚洗浄剤組成物に用いられる成分、  
40 例えばラノリン及びその誘導体、ミリスチン酸イソプロピル等のエステル類、ヤシ油などのトリグリセライド等の油分、ポリグリセリン脂肪酸エステル等の保湿剤、トリクロサン、トリクロロカルバニリド等の殺菌剤、グリチルリチン酸カリウム、酢酸トコフェロール等の抗炎症剤、メチルパラベン、ブチルパラベン等の防腐剤、エチレンジアミン四酢酸又はその塩、ヒドロキシエタンジホスホン酸又はその塩等のキレート剤、クエン酸、コハク

酸等のpH調整剤、カルボキシビニルポリマー、カラギーナン、ヒドロキシエチルセルロース、カチオン化セルロース等の増粘剤、塩化ナトリウムなどの塩類、その他パール化剤、香料、色素、紫外線吸収剤、酸化防止剤、植物エキスなどを、本発明の効果を損なわない範囲において配合することができる。

【0042】本発明の皮膚洗浄剤組成物は、常法により前記成分を混合することにより製造することができる。

【0043】本発明の皮膚洗浄剤組成物は、例えば洗顔料、メイク落とし、身体洗浄剤などとする事ができる。

【0044】

【発明の効果】本発明の皮膚洗浄剤組成物は、クリーミーで良好な泡立ちで、使用感に優れ、低刺激であり、しかも洗浄後の肌のつっぱり感が少なく、さっぱりとした洗浄感がありながらも、べたつきのないしっとりとうるおった洗い上がりが見られるものである。

【0045】

【実施例】次に、実施例を挙げて本発明を更に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0046】実施例1

表1に示す組成の皮膚洗浄剤組成物を常法により製造し、泡立ち、泡質、使用感及び低温安定性を評価した。結果を表1に併せて示す。

【0047】(評価方法)

(1) 泡立ち、泡質及び使用感：皮膚洗浄剤組成物1gを手で泡立てたときの泡立ち、泡質及び洗浄後の使用感を以下の基準で官能評価した。

(i) 泡立ち：

○；十分な泡が立つ。

△；少し泡立つ。

×；ほとんど泡立たない。

(ii) 泡質：

○；きめが細かくクリーミーで弾力のある泡。

△；きめが粗く、水っぽい泡。

×；ほとんど泡立たない。

(iii) 使用感：

○；つっぱらない。

△；ややつっぱる。

×；つっぱる。

【0048】(2) 低温安定性：皮膚洗浄剤組成物を口径2mmのスライズ容器に充填し、-5℃で1日保存した後の状態を以下の基準で評価した。

○；やや増粘するが、容易に吐出できる。

×；流動性がなく、吐出できない。

【0049】

【表1】

成 分 (重量%)	本 発 明 品			比 較 品		
	1	2	3	1	2	3
ラウリン酸カリウム	5	5	10	—	—	7
モノラウリルリン酸カリウム	—	5	—	10	12	—
ポリオキシエチレン (2.5) ラウリル 硫酸トリエタノールアミン	5	—	—	—	9	—
トリメチルグリシン	2	2	2	—	0.2	2
ラウリン酸ジエタノールアミド	1	1	1	1	1	1
ラウリルヒドロキシスルホベタイン	3	3	3	3	3	3
精製水	84	84	84	86	74.8	87
泡立ち	○	○	○	×	△	△
泡質	○	○	○	×	×	○
使用感	○	○	○	△	△	○
低温安定性	○	○	○	○	○	×

## 【0050】実施例2 (洗顔料)

\* 【0051】

以下に示す組成の洗顔料を常法により製造した。

\* 【表2】

(成分)	(重量%)
ラウリン酸アルギニン	5.0
ミリスチン酸アルギニン	10.0
ラウリルリン酸アルギニン	10.0
ヤシ脂肪酸ジエタノールアミド	3.0
ジステアリン酸エチレングリコール	5.0
ラウリン酸アミドプロピルベタイン	3.0
トリメチルグリシン	5.0
1, 3-ブチレングリコール	10.0
プロピレングリコール	10.0
エタノール	5.0
コハク酸	1.0
カルボキシビニルポリマー	0.5
ジブチルヒドロキシトルエン	0.1
メチルバラベン	0.1
エデト酸塩	0.1
香料	適量
精製水	バランス

## 【0052】実施例3 (メイク落とし)

\* 【0053】

以下に示す組成のメイク落としを常法により製造した。\*

【表3】

(成分)	(重量%)
ミリスチン酸トリエタノールアミン	6.0
2-ヘキシルデシルリン酸トリエタノールアミン	10.0
ポリエチレングリコールモノラウレート	3.0
ポリオキシエチレン (3) テトラデシルエーテル	3.0
ラウロイルジエタノールアミド	2.0
ラウリルジメチルアミノオキサイド	3.0
イソステアリン酸ジグリセリル	1.0
プロピレングリコール	10.0
グリセリン	10.0
トリメチルグリシン	3.0



(7)

特開平11-180855

11  
ジブチルヒドロキシトルエン  
ヒドロキシエタンジホスホン酸  
プロピルバラベン  
硫酸ナトリウム  
香料  
精製水

12  
0.1  
0.1  
0.1  
0.1  
適量  
バランス

【0054】実施例4（身体洗浄剤）

\*【0055】

以下に示す組成の身体洗浄剤を常法により製造した。 \* 【表4】

(成分)	(重量%)
ヤシ油脂肪酸リジン	10.0
N-ラウロイル-β-アラニンナトリウム	10.0
ラウロイルメチルタウリンナトリウム	5.0
アルキルサッカライド (AG-10LK、花王社製)	5.0
ポリオキシエチレン (3) ポリオキシプロピレン (17)	
グリコールエーテル	3.0
ラウリルヒドロキシスルホベタイン	3.0
グリシンベタイン	5.0
3-メチル-1, 3-ブタンジオール	10.0
ソルビトール	10.0
エタノール	5.0
グリチルリチン酸塩	0.2
エデト酸塩	0.1
ジブチルヒドロキシトルエン	0.1
1-メントール	0.3
アロエリキッド	0.5
香料	適量
色素	適量
精製水	バランス

【0056】実施例5（洗顔料）

※【表5】

以下に示す組成の洗顔料を常法により製造した。 ※30

(成分)	(重量%)
ラウリン酸アルギニン	5
ラウリルリン酸アルギニン	8
N-ラウロイル-N-カルボキシエチルグリシンナトリウム	5
N-ココイル-N-メチルタウリンナトリウム	1
グリセリン	5
ジグリセリン	3
トリメチルグリシン	0.2
チューペローズポリサッカライド	1
アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体 (カーボボールETD-2020、BF Goodrich 社製)	0.5
モノラウリン酸ポリオキシエチレン (20) ソルビタン	1
モノステアリン酸ポリオキシエチレン (190) グリコール	1
アスナロエキス	0.8
オオバクエキス	0.2
3-1-メントキシプロパン-1, 2-ジオール	0.5
エチルバラベン	0.1
青色1号	微量
精製水	バランス

【0057】実施例6（洗顔料）

50 以下に示す組成の洗顔料を常法により製造した。

【表6】

(成分)	(重量%)
ミリスチン酸カリウム	10
ステアリン酸カリウム	8
ミリスチルリン酸カリウム	10
N-ラウロイル-L-グルタミン酸ナトリウム	5
トリメチルグリシン	8
グリセリン	5
イソブレングリコール	5
ポリエチレングリコール2000	3
ボダイジュエキス	0.2
アルテアエキス	0.1
ヒバマタエキス	0.1
BHT	0.1
EDTA	0.1
プロピルパラベン	0.1
精製水	バランス

【0058】実施例2～6で得られた皮膚洗浄剤はいずれも、クリーミーで良好な泡立ちで、使用感に優れ、しかも\*かも低刺激で、洗浄後にさっぱりとして、かつべたつきのないしっとりとした洗い上がりを得ることができた。

---

フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

C 1 1 D 3:33  
1:04)